

第 2 区

定数 9 名 候補者 9 名

候補者氏名（受付順）

1. 氏名 2. 生年月日 3. 主たる勤務地 4. 経歴 5. 抱負 6. 現職/新任/再任

1. 齊藤 元 2. 1966/10/19
3. 岩手医科大学
4. 1991 年 秋田大学医学部卒業, 2018 年 岩手医科大学呼吸器外科学講座教授
5. 外科の魅力伝えつつ次世代の外科医の育成に努め, 日本外科学会および外科医療の発展に尽力したいと思います。
6. 現職

1. 袴田 健一 2. 1960/6/28
3. 国立大学法人弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座
4. 1985 年弘前大学卒. 2008 年弘前大学大学院医学研究科消化器外科学教授. 2023 年弘前大学医学部附属病院長. 医療安全管理委員会委員・外科医労働環境改善委員会委員・遠隔手術実施推進委員会委員他.
5. 新規医療技術の開発, 基礎医学・臨床医学研究の推進による外科学の発展と外科診療の充実, 外科を取り巻く諸課題の解決への取り組みと, 次世代の外科医の育成に誠心誠意努めて参ります。
6. 現職

1. 佐々木 章 2. 1962/6/10
3. 岩手医科大学医学部外科学講座
4. 1988 年金沢医科大学医学部卒業 2010 年岩手医科大学外科学講座准教授 2015 年同教授
5. 外科志望者の減少や社会構造と働き方改革が変化する中で, 次世代を担う若手外科医の人材育成, 外科学と本学会のさらなる発展のため, 誠心誠意努力する所存です. ご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。
6. 現職

1. 皆川 正仁 2. 1971/6/13
3. 弘前大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座
4. 1996 年 3 月弘前大学医学部卒 同年胸部心臓血管外科学講座 (旧第一外科) 入局 2006 年 5 月同講師 2008 年 8 月より 2 年間米国ペンシルバニア大学留学 2019 年 4 月同准教授 2021 年 2 月同教授
5. 高齢化社会と外科医不足が進むなか, 北東北における外科医の育成と労働環境の改善に取り組んで参ります. 日本外科学会のさらなる発展に寄与できるよう努めて参ります。
6. 現職

1. 金 一 2. 1969/10/20
3. 岩手医科大学附属病院
4. 平成 7 年 3 月岩手医大医学部卒・第三外科入局
平成 14 年 9 月エモリー大学 3 年間留学
平成 19 年 6 月小倉記念病院 1 年間国内留学
平成 26 年 4 月榊原記念病院心臓血管外科
平成 29 年 4 月岩手医大心臓血管外科 教授
5. これからの時代を担う若手医師に外科医になる魅力はなにか, そしてただ手術ができる外科医ではなく学会を通しアカデミックサージャンになるための一役を微力ながら東北地方で担えればと考えています。
6. 新任

1. 平林 健 2. 1963/1/26
3. 弘前大学医学部附属病院小児外科
4. 昭和 63 年慶應義塾大学医学部卒業後, 外科学教室入局.
平成 2 年, 小児外科専攻. 東京都立清瀬小児病院で研修後, 国立栃木病院・聖路加国際病院・東海大学勤務を経て, 平成 29 年より弘前大学に勤務しております。
5. 昨今, 少子高齢過疎化が叫ばれている北日本ですが, 医療の基本である外科, 特に小児外科を維持発展させるため, 粉骨砕身の覚悟で外科学会に貢献したいと思います。
6. 現職

1. 赤坂 治枝 2. 1980/2/27
3. 弘前総合医療センター
4. 2006年弘前大学医学部卒、2012年弘前大学大学院修了、大学や関連施設で勤務後、2019年ドイツライプルク大学留学、2020年弘前大学消化器外科助教、2022年1月現所属先勤務。
5. 女性外科医がまだ少ない時代から、周囲の支えで育児をしながら外科医としてのキャリア形成を継続することができました。これまでの経験を元に、今後の日本外科学会、外科医全体の発展に貢献したいと考えています。
6. 新任

1. 南谷 佳弘 2. 1962/2/6
3. 秋田大学大学院医学系研究科胸部外科学講座
4. 1986年秋田大学医学部卒業、1991年3月秋田大学大学院卒業、2013年5月秋田大学胸部外科学講座教授、2019年4月秋田大学副学長兼医学部附属病院長
5. 日本の外科学の発展のために尽力したいと思います。
6. 現職

1. 有田 淳一 2. 1972/6/29
3. 秋田大学大学院医学系研究科消化器外科学講座
4. 1997年東京大学卒業、2007年医学博士、2001年東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科入局、2010年がん研有明病院、2018年東京大学肝胆膵外科准教授、2022年10月秋田大学消化器外科教授
5. 東京大学で肝胆膵外科を専門に診療、研究、教育に従事して参りました。広い経験をもとに年々減少している消化器外科希望の若者が少しでも増えるよう東北地方、秋田の地で全力を傾ける所存です。
6. 新任